

スポーツで メダルを もらう喜び!

石川 泰地^{たいち}さん

10月13日から福井県で行われる「第18回全国障害者スポーツ大会」に北海道選手団の一員としてフライングディスク競技に出場する石川泰地さんと、お母さんの清美さんにお話を聞きました。



フライングディスクとの出会い

ダウン症をもつ高校3年生の泰地さんは、お兄さんが剣道を習っていた影響もあり、小さい頃から剣道を習っていました。剣道は面をつけて競技をしますが、障がいの症状で首が脱臼しやすいために試合には出られなかったそうです。当時、当別剣道連盟で指導をしていた木村純一さんが、障がいのある方にもスポーツを楽しむ環境をつくろうと、平成25年4月に「とうべつチャレンジドクラブ」を立ち上げました。そのクラブに参加し、フライングディスク競技に出会ったことが、その後泰地さんが、スポーツでメダルをもらう喜びを知ることにつながっていきました。

北海道選手団の合宿で手応え

フライニングディスクは、一般に「frisbee」といわれるプラスチックの円盤を投げて、距離や正確性を競うスポーツです。障がい者の大会では、3回投げてその中で最も遠く飛ん

だ距離を競う「ディスタンス」と、10回投げて内径0.915mの輪を通過した回数を競う「アキュラシー」の2種目があります。泰地さんは、今年6月に江別市内で2泊3日で行われた北海道選手団の合強化宿にも参加。そこで初めて会ったコーチに教わるととても集中して練習し、ディスタンスの自己記録が5m伸びて30mも投げられるように。アキュラシーでは10投中8投が輪を通過するまでに上達したということです。

全国大会で楽しみな種目は?

と、泰地さんに聞いてみると、「アキュラシー」との答えが返ってきました。「フライングディスクを始めた5年前は、距離を競う『ディスタンス』が好きだったのに、全国大会を目指してからは、いつの間にか難しい種目の『アキュラシー』の方が楽しくなったなんて、強化合宿で自信がついたのですね」と、清美さんは感慨深い様子でした。

学校や家での様子

お話するのに時間がかかるといふ泰地さんですが、高等養護学校での授業の内容を聞いてみると、「粘土で花瓶を作ってね。花瓶が終わったら輪花皿りんかざら(シルエットがお花のような皿)を作る」と自分の言葉でしっかりと教えてくれました。最後に、家で過ごす一番好きな時間を聞くと、「テレビとかユーチューブを見ながら、よさこいを踊る」と少し照れた様子で教えてくれました。



届いたばかりの国体のジャージと帽子を身につけて、取材に応じた泰地さん。全国大会では、他の出場者との交流も楽しみのようです。全国大会、頑張ってください。応援しています。(9月13日)